

### 3) 高齢化率および昼夜間人口比との関係の分析

想定震度の大きい地域における高齢化率の高い地域、昼夜間人口比の大きい地域の状況を把握した。概要は以下のとおりである。

- ・震度6強が想定される地域に、高齢化率が28%以上と高い地域（新潟島（万代島）東部など）が含まれている。（図2-31参照）
- ・震度6強が想定される地域に、新潟島（万代島）や新潟駅周辺、鳥屋野潟南部など昼夜間人口比が100%以上となる地域が含まれている。（図2-31参照）

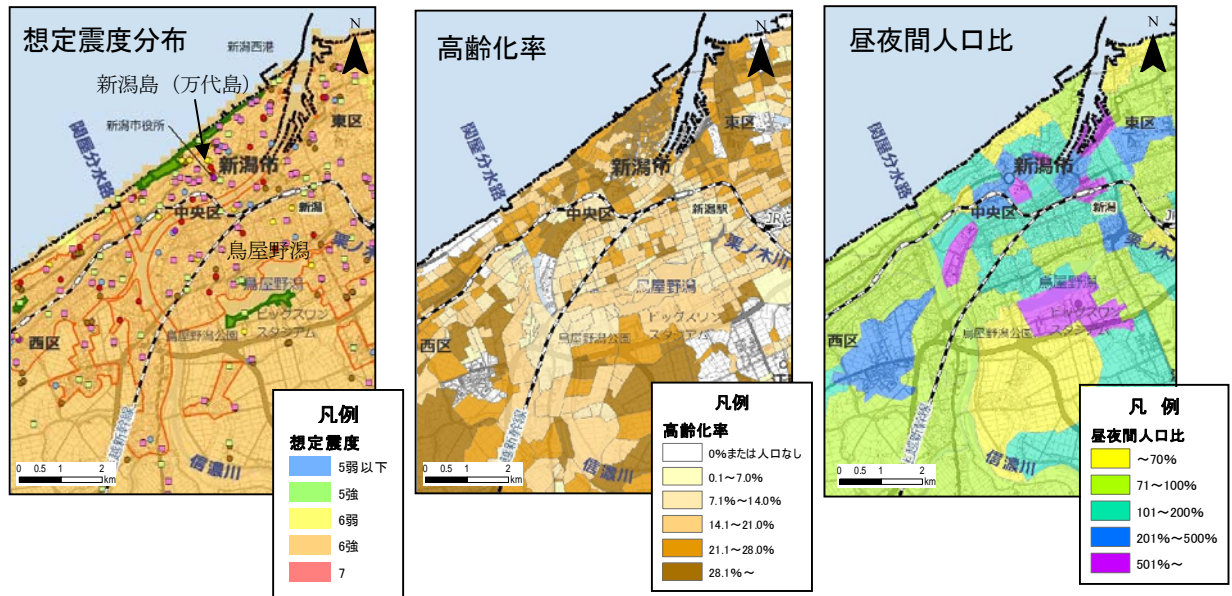


図2-31 新潟市中心部の想定震度分布と高齢化率・昼夜間人口比

## (2) 液状化危険度分布と土地利用の重ね合わせ

### 1) 市街化区域および防災拠点との重ね合わせ

市街化区域において液状化危険度の大きい地域および防災拠点の状況を把握した。概要は以下のとおりである。

- ・新潟島（万代島）をはじめ海岸に沿って発達している新潟砂丘や、信濃川沿岸の砂質土が広がっている市街化区域では、液状化危険度が大きくなっている。（図2-32参照）
- ・江南区中心部や新潟東港工業団地周辺の市街化区域では、液状化危険度が小さくなっている。（図2-32参照）
- ・新潟市中央部でマグニチュード7.0の地震が発生した場合に液状化危険度が大きい地域は、市内の全面積の約24%（約172km<sup>2</sup>）となっており、市内の全人口の約32%（約25.7万人）が居住している。（図2-32、表2-8（P49）参照）
- ・市内の全市街化区域面積の約43%（約47km<sup>2</sup>）が液状化危険度の大きい地域となっている。（図2-32、表2-8（P49）参照）

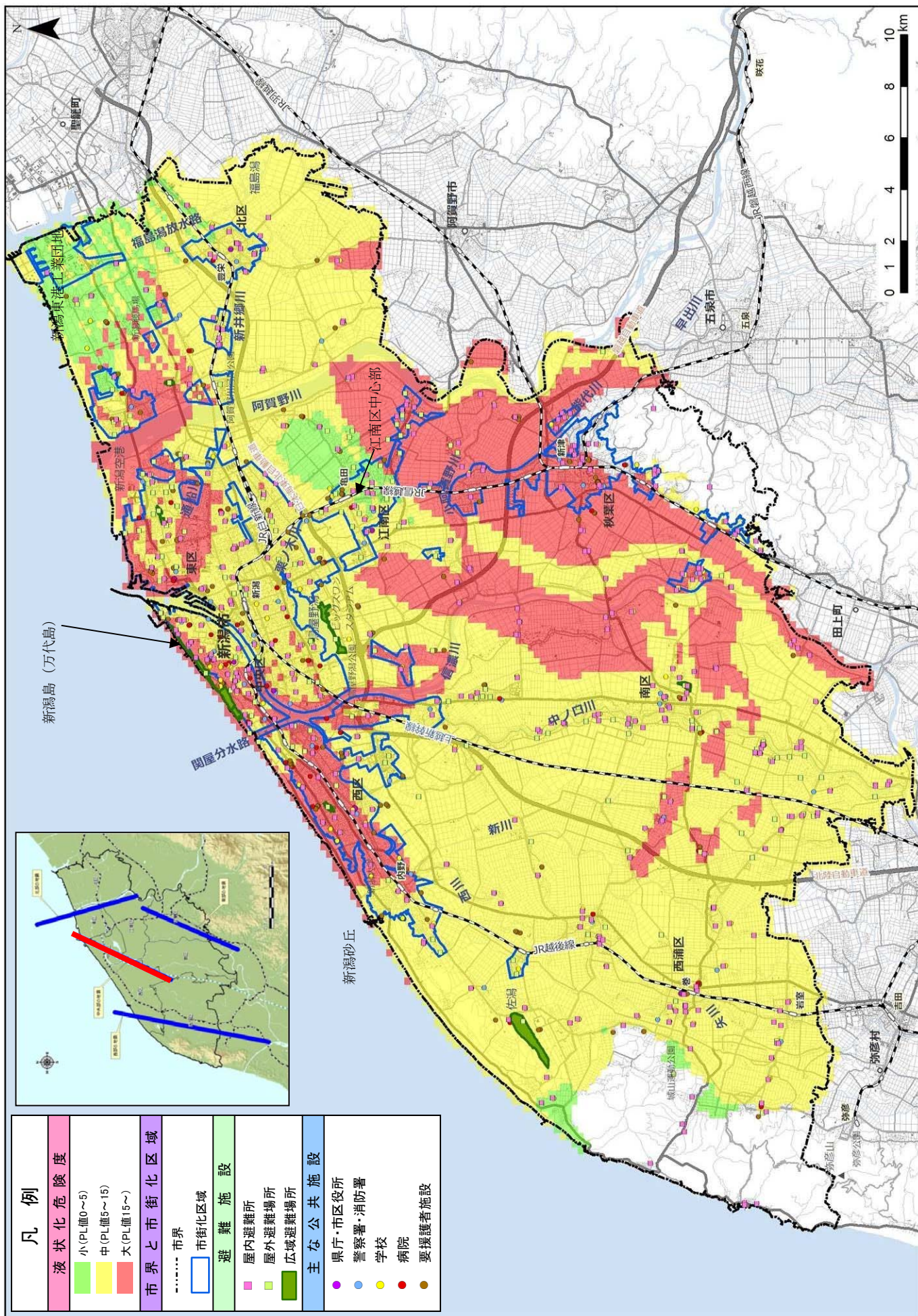


図 2-32 液化危険度と市街化区域・防災拠点の重ね合わせ図